

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |               |    |               |
|----------------|---------------|----|---------------|
| ○事業所名          | 仙台市西花苑たんぼぼホーム |    |               |
| ○保護者評価実施期間     | 令和8年2月20日     |    | ～<br>令和8年3月3日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)        | 22 | (回答者数) 20     |
| ○従業者評価実施期間     | 令和8年2月28日     |    | ～<br>令和8年3月7日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)        | 10 | (回答者数) 10     |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年3月19日     |    |               |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※) だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること   | 工夫していることや意識的に行っている取組等  | さらに充実を図るための取組等   |
|---|---|--|--|
| 1 | 親子通園の形態を取っていること。  | 一緒に参加しながら、お子さんへの対応を職員がやって見せ、保護者と共有している。またマジックミラー越しにこどもの姿や活動内容、支援方法などを直接見ることができ、保護者のこども理解、家庭での育児のヒントに繋げている。勉強会でこどもの姿を整理するための知識の整理を保護者と一緒に実施している | 活動中やミーティングの時間を通してこどもの姿を共有し、さらにこどもへの理解を深められるようにする。  |
| 2 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。また多職種の視点を療育に活かせるよう、研修等を行い、職員の資質向上に取り組んでいる。 | 毎回、必ずクラスごとにこどもや保護者の姿、対応、支援方法などについて振り返る時間を設け、次回以降への支援に繋げている。また、振り返りの内容をクラス日誌に記録するようにしている。<br>研修で学んだ事を、実践に活かしながらよりよい支援の提供ができるように実施している。          | 業務を効率的に行い、振り返りの時間を確保できるようにする。<br>今後も職員のアセスメント力を高め、よりよい支援を行うよう研修や自己研鑽を行っていく。                  |
| 3 | 保護者からの育児等に関する相談に応じ、面談を適時行っている。  | 面談日以外にも保護者やこどもの様子から保護者の心情を察知し、タイムリーに面談を行い、面談内容も職員間で共有するようにしている。また保護者一人一人に対しての支援の目標についても、職員間で共有していく。  | 子育てや発達、障害、福祉制度などに対する知識を深められるよう園内研修を効果的に行う。保護者への対応について、相談援助技術の向上にむけ、ロールプレイなどを用いた研修も効果的に行っていく。 |

|   | 事業所の弱み(※) だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること   | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|---|---|---|
| 1 | 職員の配置数への工夫が必要である。   | 支援度が高くても、在籍年数が長い児や年齢が高い児には単独通園を実施しているが、1対1での対応が必要な児の単独通園も増えており、人員の不足を感じる。また医療的ケア児が多くなっており、看護師の配置が1名体制では対応できない事がある。  | 当日の出席人数や児の状態像に応じた職員配置を工夫し、安全に配慮する。また医療的ケア児の受け入れ体制や医療機関との連携の在り方についても見直していく。<br>仙台市とは課題を共有しており、今後、西花苑たんぼぼホームの在り方を検討していく予定である。看護師の増員については継続して仙台市に要望していく。 |
| 2 | 児童発達支援センターとしてのより高度な専門性のある支援に向けて、職員の資質向上につなげていくこと。   | 職員の資質向上に向けて、研修を重ねてきたことを実践の場に取り入れることで効果を実感できているものの、まだ反映しきれていない点もある。変化を客観的な指標をもって検証するまでには至っていない。  | 引き続き、職員が課題を挙げやすい環境を整備するとともに、良い点は定着、改善点は具体的な解決策を見いだせるようにする。  |
| 3 | 児童発達支援センターとして、地域の子育て機関との連携を深め、多様なニーズに対応できるようアウトリーチの地域支援の充実を図っていく。また児童発達支援事業所等へのスーパーバイズなど中核機能の役割を担っていくようにする。 | 早期出会いとして、子育て支援センターや健診後の事後教室に関わってきた。更に地域の子育て関係機関との連携を深めていく。またより専門的視点を活かし、多様なニーズに対応できるよう多職種の視点を地域でも活かせるよう関わっていく。児童発達支援事業所等との情報交換を更に深め、より資質向上へ向け、研修などを企画実施していく必要がある。 | 地区担当の行政機関との連携をさらに密に行っていく。<br>地域の児童発達支援事業所の抱える課題やニーズを分析し、研修等を企画していくことで、地域のインクルーシブの推進に向けて取り組んでいく。   |